



POWERED SPEAKER AS60-112T

取扱説明書

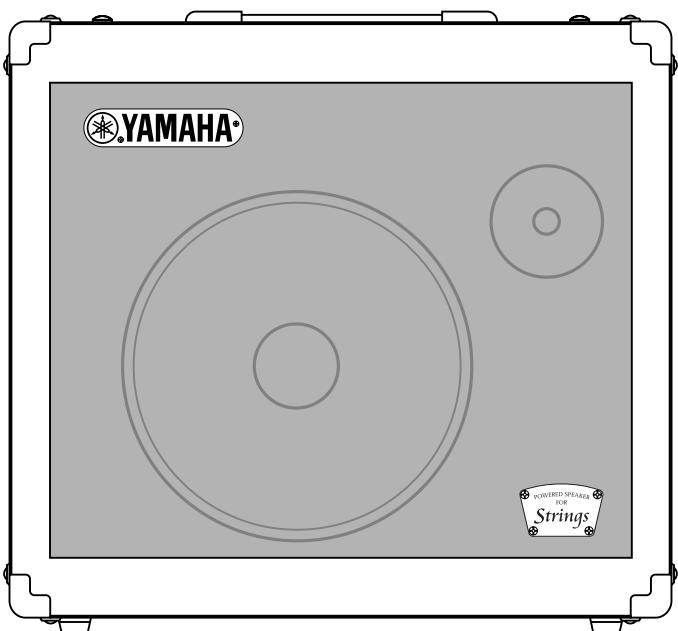
このたびは、ヤマハ・パワードスピーカーAS60-112Tをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

AS60-112Tは、60Wのパワーアンプを内蔵し30cmスピーカー1基、ツィーター1基を搭載した、ヤマハ・サイレント弦楽器用のパワードスピーカーです。

ヤマハ・サイレントバイオリン/ビオラ/チェロなどのサイレント弦楽器の持つ豊かな表現力を最大限に発揮させるために、再生周波数帯域や周波数特性、音響特性などを十分に考慮した設計となっています。

また、ヤマハAG-Stompとセットアップすれば、弦楽器の無限の可能性を感じさせるクリエイティブなサウンドシステムを構築することができます。さらにAS60-112Tを複数台接続できるLINE OUT端子も装備していますので、120W, 180Wというハイパワーなシステムのセットアップも可能です。

本製品の優れた機能をフルに発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後も不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管してください。



仕様

| | |
|---------------|---|
| 定格出力 | 60Wrms |
| スピーカー | 30cm × 1、ドームツィーター × 1 |
| コントローラー/スイッチ | VOLUME, TREBLE, MIDDLE, BASS, EQ ON/OFF, POWER |
| 接続端子 | INPUT : 標準フォンモノジヤック LINE OUT : 標準フォンモノジヤック |
| 入力レベル/インピーダンス | INPUT : 0dBm/100 kΩ |
| 出力レベル/インピーダンス | LINE OUT : 0dBm/1 kΩ |
| 電 源 | AC 100V, 50/60Hz |
| 消費電力 | 40 W |
| 寸法(W × H × D) | 513×491×291 mm |
| 重 量 | 15.0 kg |

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全へのこころがけ



注意
感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを示しています。(本体に印刷されています。)

絵表示について

この「安全へのこころがけ」は製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには ~以下の指示を必ず守ってください~

| | |
|-----------|---|
| 警告 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険のある内容を示しています。 |
| | この機器を使用する前に以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。 この機器を分解したり、改造したりしないでください。 火災、感電の原因となります。 |
| | 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ずサービスセンターに相談してください。 |
| | 次のような場所での使用や保存はしないでください。 火災、感電の原因となります。 ● 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など） ● 温度が極端に低い場所 ● 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所 ● ホコリの多い場所 ● 振動の多い場所 ※ 特に自動車内は直射日光などにより非常に高温となります。 この機器を車内に放置しないでください。 |
| | 本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。 火災、感電、故障などの原因となります。 |
| | 本機は国内仕様です。電源プラグは必ずAC100Vの電源コンセントに接続して使用してください。エアコンの電源などAC200Vのものがあります。誤って接続すると火災、感電、故障などの原因となります。 |
| | 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、重いものを乗せたり、傷つけたりしないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。 |
| | この機器を単独で、あるいはヘッドフォン、外部アンプ、外部スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。 |
| | この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対に入れないでください。感電や火災の原因になります。 |
| | 次のような場合は、直ちに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて、サービスセンターに修理を依頼してください。 ● 電源コードやプラグが破損した場合 ● 使用中に音が出なくなったり異常においや煙が出た場合 ● 異物が内部に入ったり、液体がこぼれた場合 ● 機器が（雨などで）濡れた場合 ● 機器に異常や故障が生じた場合 |
| | ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、過度に積み重ねての使用はしないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。 ※ 積み重ねてご使用になる場合は、転倒防止のため、アンプ/スピーカーのキャスターを抜いてお使いになることをお勧めします。 |
| | 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いておいてください。 |
| 注意 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、財産が損害を受ける危険のある内容を示しています。 |
| | 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。 |
| | タコ足配線はしないでください。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。 |
| | 本機とパワーアンプなどの他の機器とを接続する際は、必ずすべての機器の電源を切った上で行ってください。スピーカーなどの破損や故障の原因となります。 |
| | 本機の電源を入れる際は、必ずVOLUMEコントロールを0にした状態で行ってください。感電または機器の損傷のおそれがあります。 |
| | 雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは別のコンセントをお使いください。 |
| | 本機の近くにパワーアンプなどの大型トランジistorを持つ機器がある場合、ハムやうなりが生じことがあります。その場合は、本機との向きや距離を変えてみてください。また、雑音の原因となるネオンや蛍光灯からは十分に離してご使用ください。 |
| | 本体のお手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かないでください。本体の変色や変質の原因になります。 |
| | 本アンプは放熱により動作中に温度が上がります。本機を使用する際は、通気性のよい場所に設置してお使いください。 |
| | 物をぶつけたり、落としたりの乱暴な取り扱いや、ボタンやスイッチ、出入力端子などに無理な力を加えたりしないでください。製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。また、思わぬけがの原因となります。 |
| | 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行ってください。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。 |
| | 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。 |
| | 電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取ってください。そのままの使用は火災、感電、故障などの原因となります。 |

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証は致しかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間に小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずどこで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

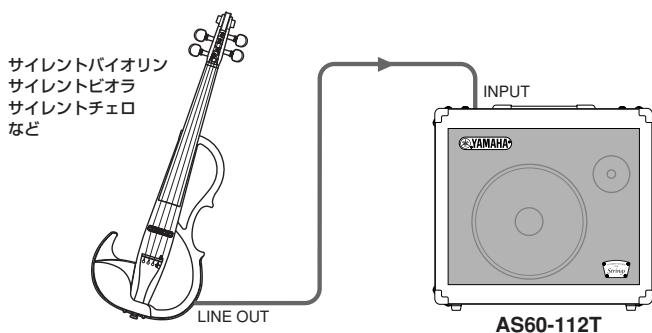
使用方法(接続例)

接続は必ず、本機およびそれぞれの機器の電源を切った状態で行ってください。

■ サイレントバイオリン/ビオラ/チェロとの接続

ヤマハサイレント弦楽器(サイレントバイオリン、サイレントビオラ、サイレントチェロなど)のLINE OUT端子とAS60-112TのINPUT端子(背面コントロールパネル部)をモノラル標準プラグケーブルで接続することで、60Wアンプシステムをセットアップすることができます。

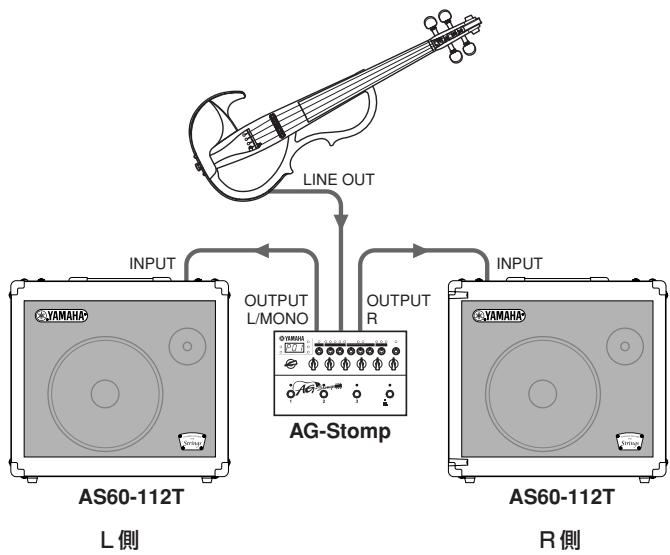
- * 音が歪む場合は、楽器側のボリューム(VOLUME)を絞ってください。



■ AG-Stomp(別売)との接続(ステレオ)

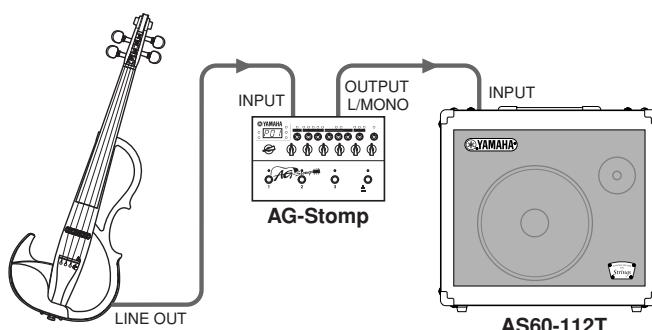
AG-Stompはステレオアウトですので、OUTPUT L/MONO端子、OUTPUT R端子それぞれにAS60-112Tを接続してステレオシステムをセットアップすることで、ステレオコーラスなどの広がりのあるサウンドをお楽しみいただけます。

接続にはすべてモノラル標準プラグケーブルを用います。



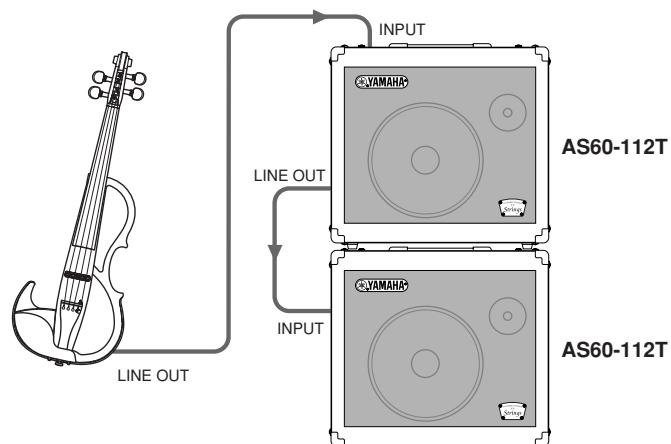
■ AG-Stomp(別売)との接続(モノラル)

ヤマハAG-Stompはエフェクター内蔵型ギター用プリアンプです。ヤマハサイレント弦楽器のLINE OUT端子とAG-StompのINPUT端子をモノラル標準プラグケーブルで接続し、AG-StompのOUTPUT L/MONO端子とAS60-112TのINPUT端子をモノラル標準プラグケーブルで接続することで、コーラスやリバーブなどの効果を弦楽器の音に付加したり、演奏時のフィードバック(ハウリング)を解消したりすることができます。



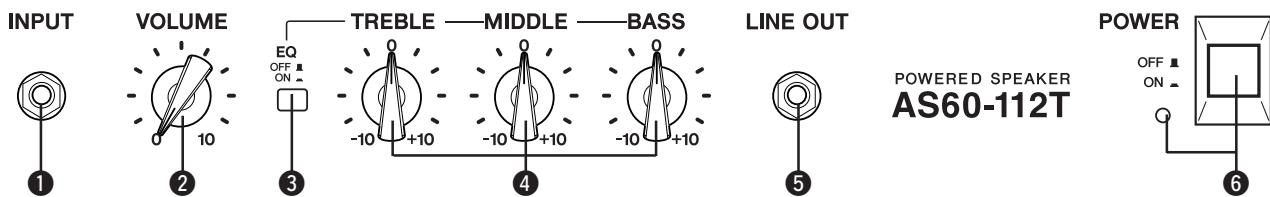
■ AS60-112Tの増設

AS60-112TのLINE OUT端子と、もう一台のAS60-112TのINPUT端子とを接続することで、120Wのハイパワーアンプシステムをセットアップすることができます。もちろん、3台、4台と同様に連結することでよりハイパワーにすることもできます。



各部の名称と機能

■ コントロールパネル



① 入力端子(INPUT)

入力用ジャックです。

楽器や外部機器の出力信号をここに接続します。

サイレントバイオリン/ビオラ/チェロの場合は、楽器のLINE OUT(外部出力)端子とこの端子とを標準プラグケーブル(モノラル)で接続します。

※ 接続は、電源スイッチを切った状態で行ってください。

② ボリュームコントロール(VOLUME)

スピーカーの音量を調整します。

③ イコライザースイッチ(EQ ON/OFF)

イコライザー(TREBLE, MIDDLE, BASS)回路のオン/オフスイッチです。ON(■)にするとイコライザーの設定が有効になります。OFF(□)にするとイコライザーの設定が無効になります。楽器や外部機器で作った音を変えずにそのまま鳴らしたい場合は、このスイッチをOFF(□)にします。

④ イコライザーコントロール(TREBLE, MIDDLE, BASS)

TREBLE(高域)、MIDDLE(中域)、BASS(低域)の音質を調整します。センター(0)でフラット、左(マイナス)へ回すとカット、右(プラス)へ回すとブーストとなります。

⑤ 増設用出力端子(LINE OUT)

INPUT端子に入った信号をインピーダンス変換して、この端子から出力します(イコライザーハードウェア回路は通りません)。AS60-112Tなどのパワードスピーカーを増設する場合、ここに接続します。

⑥ 電源スイッチ&ランプ(POWER)

本機の電源スイッチです。押し込むとONになります。スイッチ横のランプが点灯します。

※ スピーカーの保護のため、電源のON/OFF切り替えは、②ボリュームコントロールを“0”にしてから行ってください。

サービスについて

1. 保証期間

本機の保証期間は、ご購入(保証書による)より満1ヶ年(現金・クレジット・月賦等による区別はございません)。また保証は日本国内でのみ有効)と致します。

* This warranty is valid only in Japan.

2. 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

3. アフターサービス

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となります。そのほかご不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

4. 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合いは、使用環境や使用時間などによって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用頂くためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ、リレー類、入出力ジャック、接続端子など

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

| ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点 | | |
|---------------------|---|--------------------|
| (修理受付および修理品お持込み窓口) | | |
| 北海道サービスステーション | 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 | TEL (011) 512-6108 |
| 仙台サービスステーション | 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F | TEL (022) 236-0249 |
| 首都圏サービスセンター | 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F | TEL (03) 5762-2121 |
| 浜松サービスステーション | 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階 | TEL (053) 465-6711 |
| 名古屋サービスセンター | 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F | TEL (052) 652-2230 |
| 大阪サービスセンター | 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 | TEL (06) 6877-5262 |
| 四国サービスステーション | 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内 | TEL (087) 822-3045 |
| 広島サービスステーション | 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14 | TEL (082) 874-3787 |
| 九州サービスステーション | 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 | TEL (092) 472-2134 |
| [本社] CSセンター | 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階 | TEL (053) 465-1158 |

ヤマハ株式会社 各営業グループ (商品についてのお問い合わせ先)

| ヤマハ株式会社 各営業グループ (商品についてのお問い合わせ先) | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|--------------------|
| 国内楽器営業本部 管弦打学校営業統括部 | | |
| 企画推進室 | 〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11 | TEL (03) 5488-1690 |
| 東北・北海道営業グループ | 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター) | TEL (011) 512-6122 |
| 北海道 | 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 | TEL (022) 222-6146 |
| 東北 | 〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11 | TEL (03) 5488-1672 |
| 関東・甲信越営業グループ | 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 | TEL (052) 201-5166 |
| 東海・北陸営業グループ | 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 | TEL (06) 6252-5341 |
| 近畿・中四国営業グループ | 〒812-8508 福岡市博多区駅前2-11-4 | TEL (092) 472-2155 |

※所在地、電話番号は変更になる場合があります

ヤマハ株式会社

国内楽器営業本部 管弦打学校営業統括部 企画推進室

〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11 03-5488-1690